



第94回山口県メーデー

“働くものの団結で生活と権利を守り
平和と民主主義、中立の日本をめざそう”

〔写真は大デモ行進の先頭に立つ河合喜代県議（中央）〕

5月1日 山口市



山口県本部版

NO 296

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

山口県本部

〒754-0004

山口市小郡金堀町

21番の1

林洋武方

電話&FAX

083 (972) 3987

◆統一選後半戦で山口県では共産党の候補が宇部市4名、和木町・平生町で計6名全員当選しました。

◆5月10日、広島高裁で、センチュリー裁判の判決が下ります。

◆5月14日は田中サガヨの没後88周年の記念日。同盟県本部と下関支部は、下関豊田町正念寺の田中家の墓参り。その後、学習会を行いました。

◆第68回山口県母親大会が5月28日(日)防府市のアスピラートで開かれます。

◆国賠同盟の2023年国会請願は5月16日(火)に行われます。山口県は代表派遣を見合わせ、署名300筆を中央に託しました。

◆同盟県本部の総会は6月17日(土)午後1時30分から小郡の地域交流センターで開催。中国ブロック交流集会は9月10日〜11日に下関のホテル海峽ビューしものせきで開催します。

◆同盟発行の「治安維持法と現代」2023年春季号(定価千円)発売中です。

◆同盟県本部の5月度役員会議は22日(月)午後1時30分より共産党県委員会で開催です。

党創立百周年 山口県の党活動家たち 六回目

差別に対する烈火のごとき怒り 山本利平

山本利平は日本共産党の最初の山口県会議員（1967年から1979年3期12年）です。彼は一九〇四年（明治三七年）美祿の被差別部落で生まれ萩市玉江で成長し戦争前の特高の弾圧の厳しいなか下関で社会活動を担いました。幼い頃から理不尽な差別に対して激しい怒りを感じていました。大阪に仕事をえるなか部落解放運動に参加し社会主義に目覚めました。二十過ぎに下関に戻り下関の関門水平社新聞の記者（筆名山本凡児）としてまた下関の解放運動の先導者として全国的にも有名になりました。彼は県下の不当な差別事件に対して糾弾の先頭に立つと共に全国的な差別問題、広島への差別事件にかかわって演説会の応援弁士になりました。ただ治安維持法が発効していませんでしたが糾弾の先頭に立ったということで「恐喝未遂」。新聞に書いたということで「出版法違反」などの罪状をつけられ広島刑務所に懲役一年半収監させられました。こうした刑務所に収監された時間をいかし小学校しか出ていない彼は、社会主義の勉強にさらにエスペラント語（国際共通語）の学習や英語の習得に取り組みました。

山本利平は部落解放運動の先頭に立つただけでなく労働

運動の指導者でした。下関一般労働組合を組織して委員長になりました。山口県で最初のメーデー・デモを組織したのも山本利平でした。1930年下関の広場に二〇〇名からの労働者を集め当時の新聞にも大々的に報道されています。前述の特高警察の山本操の回想記によると「下関の三井クロードという大会社がストライキをやるといっているので道一つはさんで警察の取締本部を作った。山本凡児ごときに天下の三井の工場のストなどさせてなるものかと対策を行った。山本をだまして警察に出頭させ逮捕してストはめっちゃめっちゃになった。警察は労働運動に介入しないことになっていて警察内部でも問題視されたが、折からの満州事変でウヤムヤにして乗り切った」など大企業のストの弾圧の手先として警察が法律無視をしたことを告白しています。戦時中の激しい弾圧のさなか一九三七年（昭和12年）下関市の市会議員に立候補して当選し無産政党としての意気を示しました

日本の敗戦と共に彼は上京し当時解放された共産党の幹部が集まっていた東京自立会館を訪ね共産党とつながりをつけ戦後最初の山口県の県委員長に就任しました。そのときの県党会議は現在の山口市小郡の光明寺で行われました。以後山口県の党とともに歩みをつづけられ県会議員を引退されたあと1986年（昭和61年）83歳でなくなられました。（林洋武）